

[報告] 第38回歴史地震研究会参加記

東京大学大学院 理学系研究科地球惑星科学専攻* 漆原 惇

Impression Report of 38th General Meeting

Sunao Urushibara

Earthquake Research Institute, The University of Tokyo, 1-1-1, Yayoi, Bunkyo-ku,
Tokyo, 113-0032 Japan

§ 1. はじめに

第38回歴史地震研究会が2021年9月2日(水), 3日(木)の2日間にわたって開催された。今年は苫小牧での開催予定であったが, 新型コロナウイルスの影響により研究会は昨年に引き続き Zoom を使用してオンラインで行われた。私は歴史地震研究会への参加は初めてであったが, 口頭発表 33 件, ポスター発表 9 件と多種多様な発表があり, 多くの学びを得られる楽しい2日間となった。

§ 2. 口頭発表

口頭発表は初日に「東北・北海道の地震と諸現象」, 「歴史地震全般・関東地方の地震と諸現象」が行われ, 2日目には「西日本・北陸の地震と諸現象」, 「東南海・南海の地震と諸現象」が行われた。

§ 1 でも述べたようにオンライン開催は昨年に引き続き2回目であったため, 発表中のタイマー表示や残り時間を知らせる鈴の音も準備されていた。また, 前日に画面共有のテストを行う機会も用意されており, 当日の発表はとても円滑に進んだと思う。

発表は文理を問わず多種多様であった。私は昨年度から地震学の研究室に配属となり研究に取り組んできたが, 現代の地震学しか扱っていなかったため, 今までに触れてこなかった分野の発表はどれもとても興味深いものであった。例えば, 朝日放送テレビ報道局の木戸氏の発表の中にあつた「兵庫県南部地震等の近年に発生した地震についても未来では歴史地震となる」という文言はとても興味深いものであり, 歴史地震について考えさせられる言葉であった。

§ 3. ポスター発表

ポスター発表は9件の発表があつた。ポスターは大会サイトにアップロードされ, 大会期間中はいつでも閲覧できる状態であった。初日の夕方・2日目の昼の時間帯には, それぞれ1時間ずつコアタイムとして Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いて活発な議論が行われた。

苫小牧で予定されていた巡検の内容は実行委員長である西村氏の発表で一部紹介され, オンラインではあつたが現地での様子をイメージさせてくれるものであつた。

荒井氏の発表は, 中学生・高校生との共著での発表であつた。中高生が歴史地震の研究に関わっていることに驚いたと同時に, とても刺激を受ける発表であつた。

また, 私が普段はなかなか交流が持てない歴史学が専門の方に史料についての質問をさせていただくこともでき, とても有意義な時間となった。

§ 4. おわりに

本大会を通して歴史地震に対して様々な切り口を知ることができた。今回の研究会を通して得られた知見を私の研究にも活かしていき, 来年は私も発表してみたいと思った。

また, 新型コロナウイルスの流行という厳しい状況下でもこのような研究会の場を企画・運営していただいた皆様には心より感謝申し上げます。

来年の歴史地震研究会は高槻での開催予定である。私はいままでオンラインでの学会しか経験したことがないため, オンラインではなく現地で開催できる状況になっていると嬉しく思う。

* 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所
電子メール: urushibara@eri.u-tokyo.ac.jp